

令和4年度 水沢高校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和4年5月11日 14:00～15:00

2 会場 水沢高校 会議室

3 次第

(1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 自己紹介 (4) 資料説明 (5) 協議 (6) 諸連絡 (7) 閉会

4 議事録

資料説明

[校長]

今年度から水沢高校は学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールと呼ばれる。奥州地区の小中高では初の設置になるので、奥州地区のさきがけとなる。

学校協議会委員は次のことができる。(1)校長が作る基本方針を承認する(2)学校運営に意見を述べる(3)教職員の任用について県教委に意見を述べるができる

水高の現状に関しては、昨年度SSHは19年目を迎えて4期最終年度で終えた。5期もあったが、5期は組織改革がテーマであるので、いままで通り科学系人材の育成を継続したいとの思いで、SSHを終えた。3期まではSSHの対象が理数科だけだったが、4期に普通科にも拡大したところだが、今後はこれまでSSHで蓄積したものを理数科に特化することができる。そのために県からは予算付けしてもらう。普通科は奥州市を学びのフィールドとし、市と協力提携を結んだ。

[千條厚]

いわて圏・奥州市・学校の三者が連携し、普通科の「総合的な探究の時間」を発展させたい。昨年度1年生が奥州市役所を訪れ市の役割を学び、どこでどんな大人が活躍しているかを知ることができた。また学んだことをプロモーションビデオにした。今年度は奥州市をフィールドに生徒が思い描いたことを実践してみることが主眼に置いている。具体的には空き店舗を活用し、イベントを開催するなど、同時多発的にグループが実践していくものである。

学校説明

[校長]

新制服は生徒・保護者・教職員の話し合いで決められた。生徒による投票が行われ、最終決定した。今後の大きな柱は学力向上であり、進学実績も上げたい。また、理数科の充実もはかりたい。

学校運営協議委員会協議

〔校長〕

年3回実施する。2回目は教職員の間反省を受けて、9月か10月に行いたい。3回目は年度末に行いたい。委員の学校の出入りは自由とする。今年度入試の本校志願者倍率は高かったが、来年度も維持したい。制服が大きな要因だろうが、他にも何かあるか教えていただきたい。

〔菊地榮寿〕

スケジュール管理・生活管理について、中学校にどの程度期待しているか教えていただきたい。多様性を尊重する姿勢はもっと必要になる。カリキュラムポリシーの理数科には「科学的思考力を養う」とあるが、どのようにして養うのか。

〔副校長〕

仮説・実験・分析・結論といった基本的な思考サイクルを通じて科学的思考力を養いたい。

〔鈴木美喜子〕

「学校経営計画」にパートナーとあるが、パートナーとはどんな関係のパートナーか。

〔校長〕

県からの指定の様式である。パートナーとは学校対児童生徒、学校対保護者、学校対地域住民である。

〔鈴木美喜子〕

達成指標は80%とあるが現状をお教え願いたい。

〔校長〕

実際は80%を超えているが、報告のことを考えて、低めに設定した。

〔鈴木美喜子〕

奥州市との連携は授業のコマとして行うのか。

〔校長〕

現2年は2年次で1コマ、3年次で1コマ。現1年は2年次で2コマで行う。

〔東隆司〕

横文字が多いが県に使用を要求されているか。教育目標・カリキュラムポリシーは学科ごとに作るのか。

〔校長〕

そうだ。

〔東隆司〕

議員のなり手が不足している。選挙権も18歳からになったし、高校生が政治や議会に興味もってもらえるように何かしたい。

〔大越克芳〕

奥州市の高校にはすべての学科がそろっているにもかかわらず、4分の1の生徒が市外に進学している。地元

に戻ってきてもらうために市としてもバックアップしたい。

〔校長〕

奥州市教育委員会も危機感を持っている。奥州地区の中高の校長の会議を年2回行っている。6月は高校からアピール、12月には中学校から志願状況など情報交換を行っている。高校の魅力化をアピールして少しでも多くの中学生が奥州地区の高校に通ってほしい。

〔菊池祐〕

探究のテーマはどのように設定するのか。

〔校長〕

生徒が自分でテーマを設定する。取り組む価値のあるテーマを設定してほしい。普通科の生徒には地元から取り組んでほしい。どうしてこういう問題が起きているのか、市役所など大人との対話から実際のアクションへとつなげてほしい。

〔大越克芳〕

昨年度、水高から150名ほどの生徒が市役所に来たのは初めてである。初めて市役所に来た生徒も多かった。これまで高校生が役所に来て話をする機会がなかったのは反省している。しかし、実際に来て、新たな発見の機会となった生徒もいるだろう。

〔菊地榮寿〕

探究に関しては水高には先行してもらい、中学でのヒントになってもらいたい。このような探究を通じて奥州のよいところを学び、すぐにでなくとも奥州に帰って来ればよい。家庭・保護者の価値観は多様で水高への志願者は増減している。衣川中の場合、保護者の勤め先で志望校が決められる場合もある。

〔山下明〕

水高は少子化が進んでも、学力の高い生徒が学ぶ場であり続けてほしい。探究では奥州市の香りを学んでほしい。今回志願者が増えた理由の1つは応援歌練習だったのではないか。応援演歌練習が変わるのは、私は残念だが、水高は今の時代に合わせようと努めている。エアコンの設置もスムーズだった。